

繪本琉球軍記

初篇
五

へ 13
3554
5

門 へ 13
段 3554
卷 5



目錄

琉球軍記 卷之五

佐野帶刀大爭先鋒

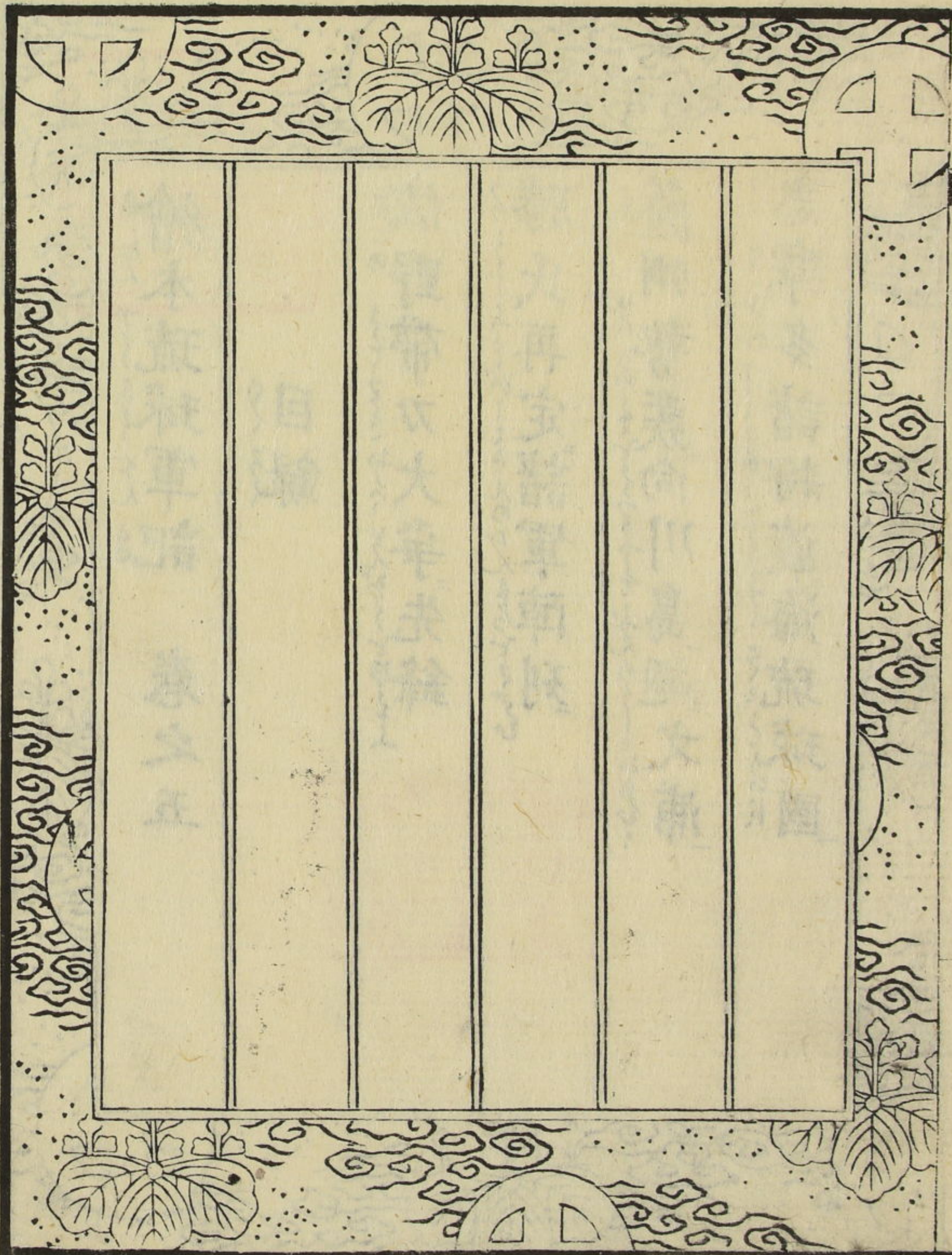
勝氏再定諸軍陣列

薩州勢蕨向川島趣文浦

志摩多諸將渡海琉球國

繪本琉球 卷之五

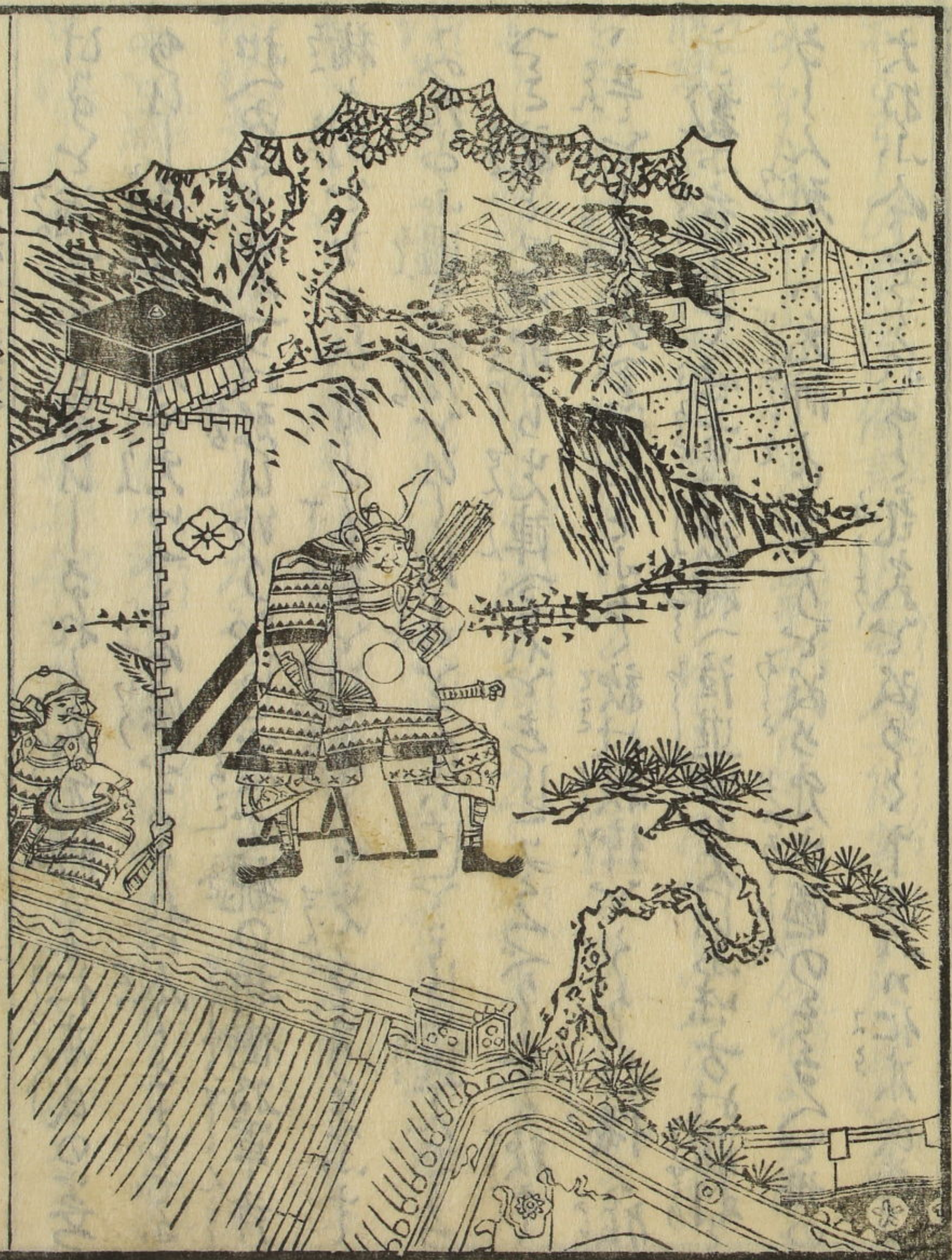
早稲田大學圖書館
昭和 33.11.10 焚
藏 書



繪本琉球軍記初編卷之五

佐野常刀大争先陣

叔も仁本武蔵守第一陣より第六陣まで左右十二隊
 れも分と定り脱小後陣の隙に及んとせし時左右六隊
 の大お佐野常刀の陣列をわたり勝氏に向ひ某々を
 救渡の戦場小向ひ先と受け代といふは是れ討つに及
 れる戦向ひか因に代のそれ軍一せれるふ又とある武士の
 本懐さすずや某々を不承れ御あふおめて先鋒さへん
 のどもと置しふ今日却て其沙汰るく種々諸将周旋の
 両家とて左右の先鋒小向ひあへんをさすくは某々をさふ



佐野
常
先陣
幸



号令員負の沙汰とつづきより老より軍をたまらせ
元帥とあひゆる仁本氏の下知るれば先陣の美い鬼も
角もさう先より先ずも人ふ勝ま一功と云君の
恩沢不報せん某が目以の多能せいつけ美と教さる
一怒る面ふつらとさるるふやんで止ざりければ勝氏
又中より某身不肖といへども希くも老よりこれ捕ふ
初りお國征伐十萬騎の惣大將といふやう依怙の計いとま
さんく某が定する國家はとめてさふあるり今足下れ
怒りと教せん自地ふあなとやさん足下万夫不敵の勇
ありといふも平心別やとあさるふ款と煙にまふこれ

總て引のくひ某とあふあふとと後陣は傍へい君
けふお州をたつわりの足下先ふふすも候て故をさるる
らば心れうらふ袖をさるる必死と死をりけり面目とす
んと無法の戦ひるんとあふこれの國家はたさるる某の
うらふ某とさるる心候こそ後ふ悔へりやさるるわ
ふさるれどとさるるさるるやられども常刀をさるるさる
ふさるるさるる勝氏あま一人の功あるさるる地理素
内とつて立派おふ一かた働きとさせおれがさるるさる
身いおるさるるさるる中ふさるる懐と又押うへて捕ふ
向い軍師のことばおふとさるるさるるさるるさるるさるる

ひくふ甘きと無智の小児ふひくふ必くくやま初より
 軍器不照とさし又取不戦場やむひ軍は佐法も豫
 そとしまりた人ふすむも何ぞもさうふ深入す
 さや進退よく前とあり君命を奉じてさうさう
 よくさうとままり死と将んずる勇士れさうひといひる
 素くても命のあひさうでるさうの付死せんそれいとも
 又はさうとさう死とあそれすむさうとさうは軍とさ
 ふさうさうは味方る人さふ及びる命さうに死とあそ
 まひ進んで戦さうさうさうは始終味方れ殺さるさうさ
 ふありさうさうむさうさう某と用ひあさうさうたさうさ

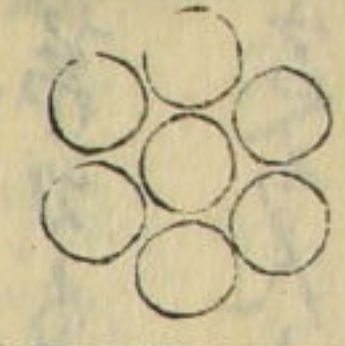
強敵さうさう付死するやさうさうさう後陣はあつて
 すさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ども勝氏決してさうさうさうさう法令はさうさう
 知るふ一旦定む法軍はさうさうさうさうさうさう
 一さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 斬のさうと死さうさうさうさうさうさうさうさう
 おさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 又陣も皆敵とさうさうさうさうさうさうさうさう
 ふさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう

の法も亦常力とるべし元帥のさへつむきなり是下分六隊
おほへり何の私辱とつるものやたすめはるなり
るり年いふふあつれと制するや常力なりはるなり
とも法おのりや人もはる不法のさるなりとて止る
はるなり

勝氏再諸軍定陣烈

昔漢の強又房元戎の紐と韓信ふりて能く破楚の
大元帥とてさす才と知り符とてさへて高祖とさすむる祖
終ふとて用いて漢家は百余年の基とせりされば仁
本武將さす才智とる朝とて知てさる太くおとさす

り三軍ふ元帥とてさす明智忽ちふりつるさす令
はふ可い法軍は死を敵とすさす一隊より第六隊
とさす十二隊のふくづり及び一とて佐野常力号令
お背とさすさすふとさす勝氏とさすさす
さす終ふ六隊ふ定一とさす勝氏が方寸ふりつるなり
さす佐野が強暴はさすさすさすさすさす佐
終ふさすさすさすさすさすさすさすさすさす
明智勝氏が上よりそれいおとさす勝氏の佐野
常力もさすさすさすさすさすさすさすさすさす
さすさすさすさすさすさすさすさすさすさす



小笠原宗女綱松
右六陣 四万三千人



鉄砲 百挺 足輕 四百人

以三人 渡辺右内
吉村春成

弓 百挺 足輕 四百人

以三人 幸屋平助
佐々木吉次

継 百筋 兵粮奉行三人

陣中足輕八人

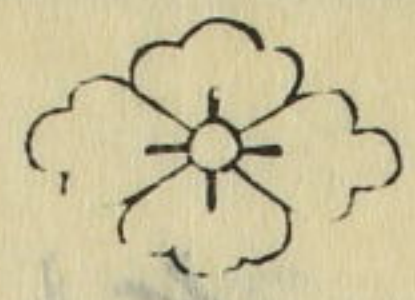
具足師 八人 医師 十人

騎 千三百騎

人数合 一々

小笠原旗本 千騎

二万三千騎



仁木武藏守勝氏
後陣 以十二万に六百人



鉄砲 二万挺 足輕 六百人

以三人 武蔵守
三枝権兵衛
今井玄直

弓 二万張 足輕 六百人

以三人 加納隼人
上松徳次郎
長谷川九平次

以十騎 勝氏家士

騎馬之兵 七万騎

谷 十左衛門
井口源五郎
系田傳次郎
榎田 信
新倉清左衛門
今津八兵衛

陣中使番

玖人

三浦友成
三浦友成
三浦友成
三浦友成
三浦友成
三浦友成
三浦友成
三浦友成
三浦友成
三浦友成

兵糧奉行

玖人

小倉十右衛門
井口又次郎
井口又次郎
井口又次郎
井口又次郎
井口又次郎
井口又次郎
井口又次郎
井口又次郎
井口又次郎

弁候 三十騎

玖人

川島左仲
吉本又次郎
吉本又次郎
吉本又次郎
吉本又次郎
吉本又次郎
吉本又次郎
吉本又次郎
吉本又次郎
吉本又次郎

医師 十人

玖人

源栖壽
源栖壽
源栖壽
源栖壽
源栖壽
源栖壽
源栖壽
源栖壽
源栖壽
源栖壽

馬医 十人

玖人

浦地舍
浦地舍
浦地舍
浦地舍
浦地舍
浦地舍
浦地舍
浦地舍
浦地舍
浦地舍

往來書状被見

玖人

并 祐筆兼常

林 虎次郎
吉野 要
向井 文六
戸川 玄左衛門
甲山 辰次
三浦 八郎

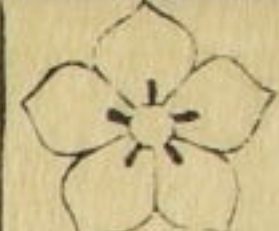
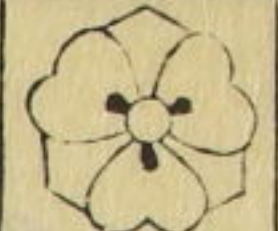
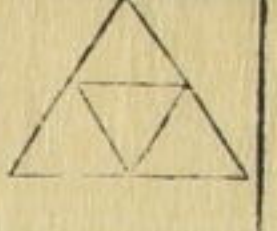
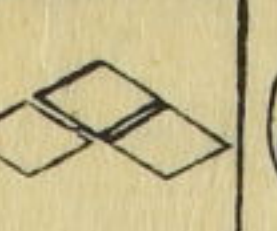
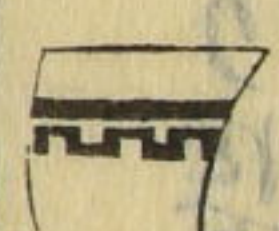
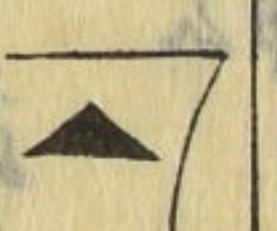
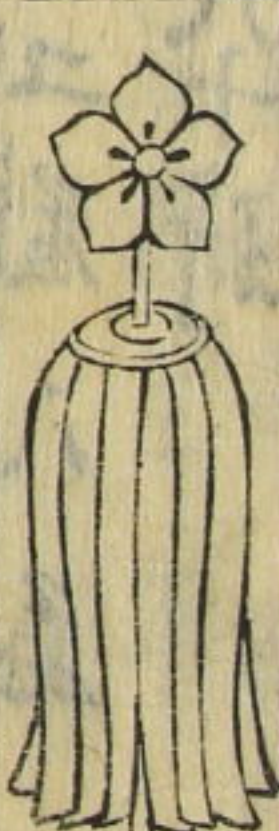
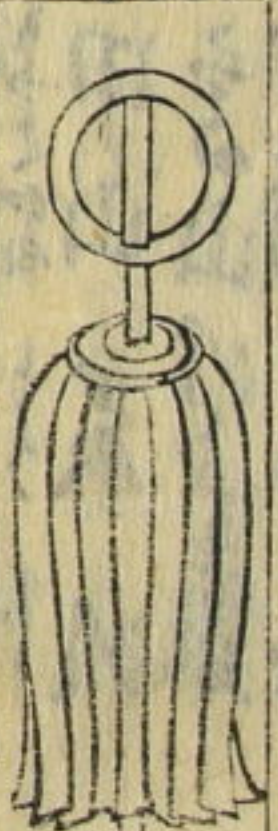
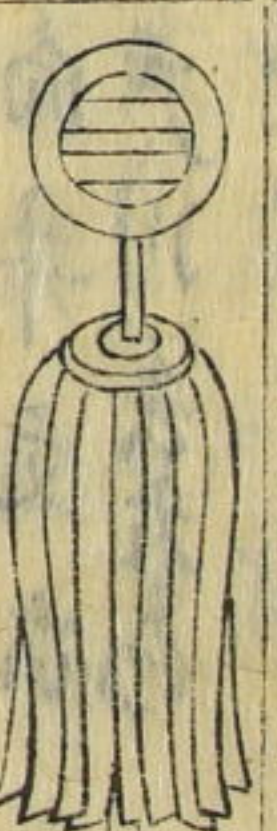
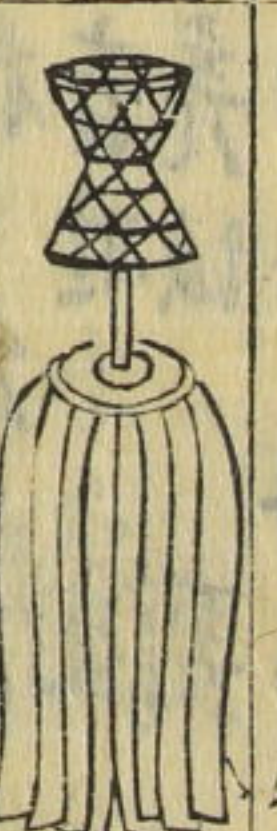
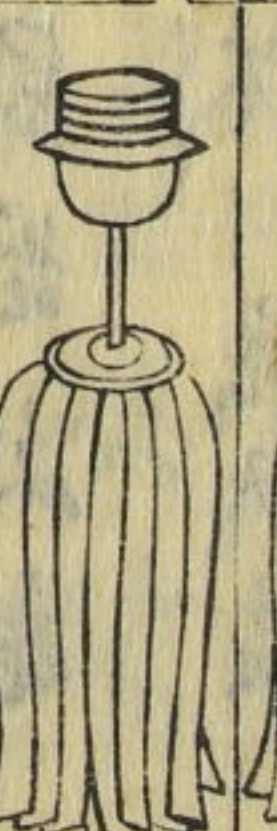
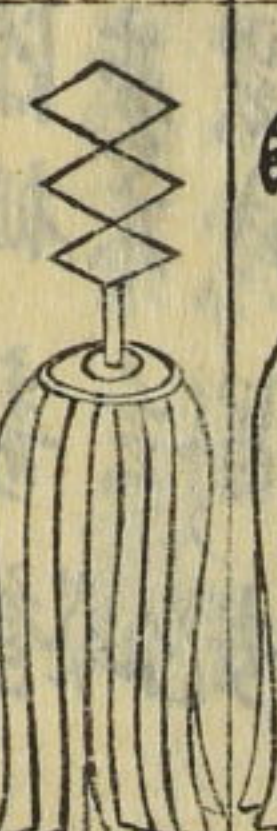
奥旦師 三十人

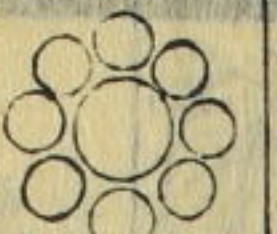
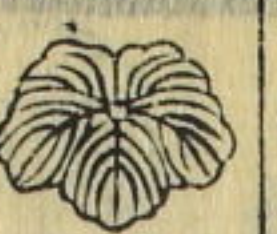
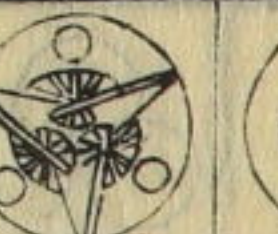
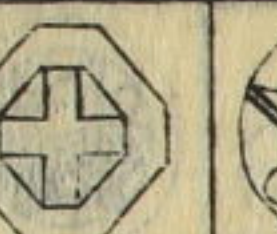
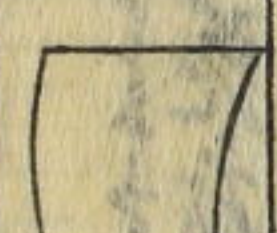
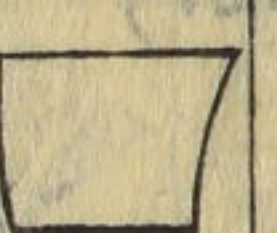
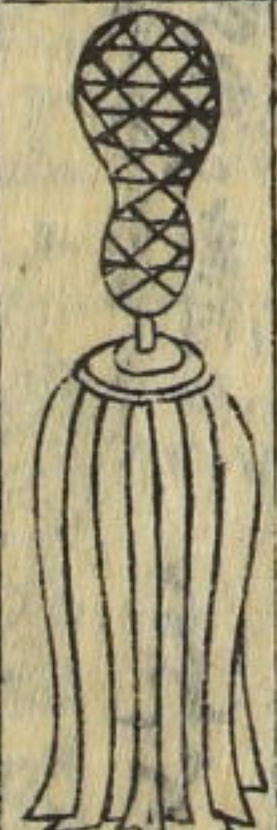
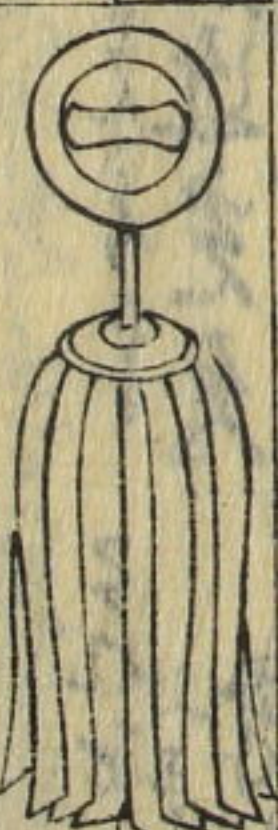
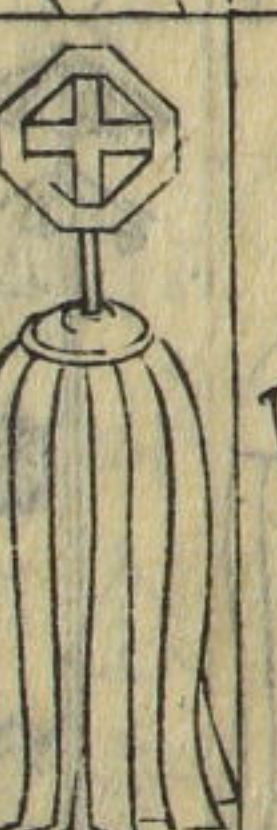
玖人

次仁木武藏守馬おりり二百八十騎

旗本 約子三百余騎

次小志之名家は流勇士格七段のそとへ

							
名就刑部友則 二百萬	大將佐左更初任 日	山田次郎富中 日	町田大和季利 日	鈴田仲之允一持 日	伊周院隼人之可 日	川上忠左惟以 日	
							
							
終云 八百人 二百騎	右日	右日	右日	右日	右日	右日	右日

							
矢野主水貴敦 日	三好小助師正 日	花房兵庫壽忠 日	小里貢鑑宣 日	中条代内公任 日	和氣治左衛門端 日	喜入多門元春 日	中村右近光貞 日
							
							
右日	右日	右日	右日	右日	右日	右日	右日

雜去
又去
以二騎

右月

歩行 あちよ
 又十荷 しちふり
 花度去度壽忠 なまふさひやうひささ
 これと これと
 本坊 ほんぼう

村上天門膏政 二万 二万

[illegible]

曲高弥久良凭睦 二万

山本次郎宗求墨跡

水山金吾一石
像兄布松千石

御医師
井人元

言来公后法服
百八

松井隆房法服
百八

永松友成
百八

天文方 奥路一蒙 軍中吟味役 毛利百々 小越孫門

軍中日紀方人 柏系三 軍中補頭 秋系忠臣

沼呂馬部 岩波十郎 長谷川平藏

馬医 井人 辰枝主鈴 陣中使番 三十人 吉岡主あ

陣中坊主 二人 山本素阿弥 尾上林清

御船奉行 小池金房 忠告勝之助

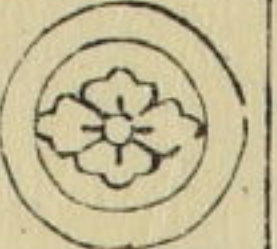
次後陳勢押をもち久 一族志多右るみ以久 外ス

旗本乃精兵 旗十二騎 千人



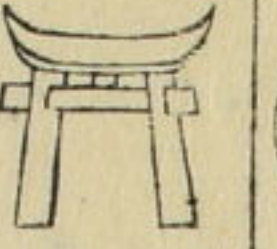
比志清頼負利勝 二万

山内公食左の惟陳 二万



岸松左門長俊 四万

井上齊実尚章 三万



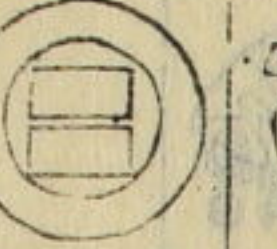
多井庄藏正家 二万

日高因左の盈行 二万



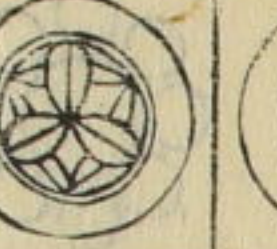
秋系六右夫周雄 二万

伊東吉吉系信久 二万



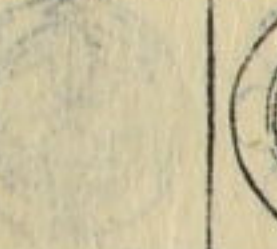
富田主税直康 二万

山内権三右惟明 二万



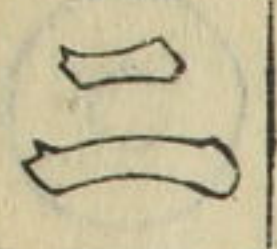
比志島要人利純 二万

多井八之助正京 二万



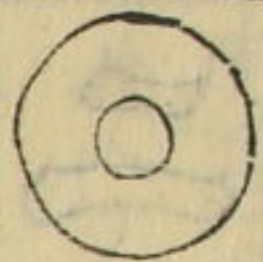
軍中惣目附 八人

千人



二 西 左 春澄 十三

伊周院新左の弘徳 七



右見方仲勝憲 四百
二十騎



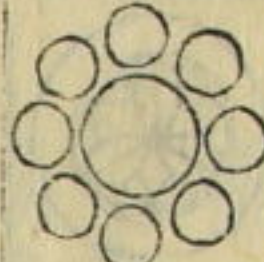
松浦盛物 四百
二十騎



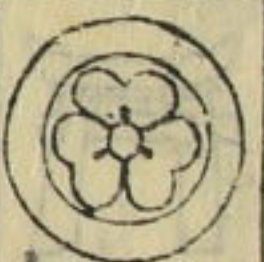
後井け面吉清 千廿五
二十騎



岸又左の紀幸 千
二十騎



戸田正玄清有温 八百五
二十騎

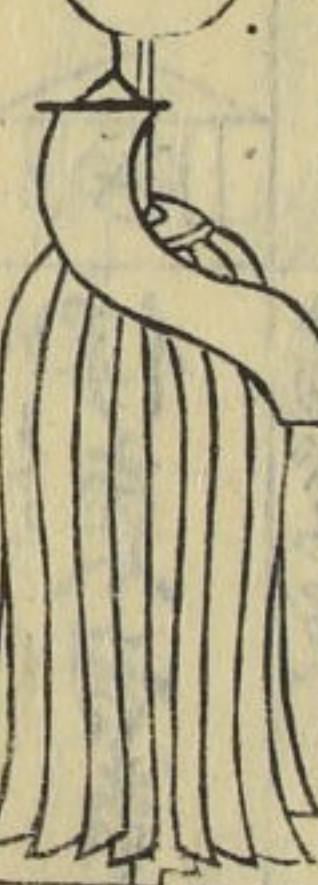


内本中弥舒正 九百五
二十騎

又舟子の大ねみ氏 千五
二十騎



伊勢内藏助長一
舟子一陣 八万六千



鉄砲 百挺 雜兵 四百人

伊勢 八人

弓 百張 日 四百人

伊勢 八人

戦船 百艘

戦船 百艘

船大工 五十人

小修武 五十人

軍勢 一万人

伊勢内藏助 旗本 一万人

兵部奉行 十人 具足師 八人

船中使 十人 医師 十人

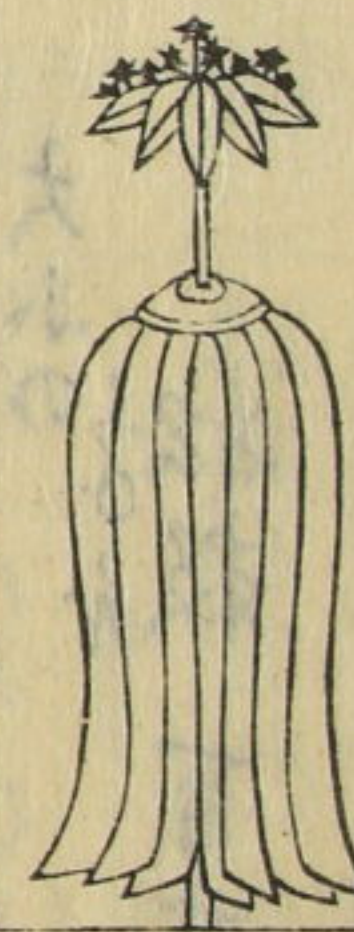
船勢 三千人

船勢 百艘



臺之助為成

日二條 又公名朝



鉄砲 五十挺 百人

以二八須為九席
透る主斗

弓 三十張 五十人

以二八須為九席
透る主斗

水軍 三百人

以三人

三丁孫紀平次
松浦以師
八丁以師

兵粮なり人三

舟なり人

具足師 三人

医師 二人

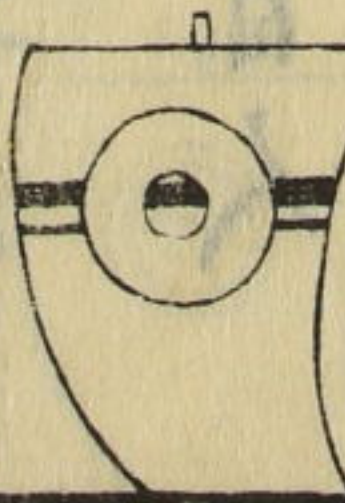
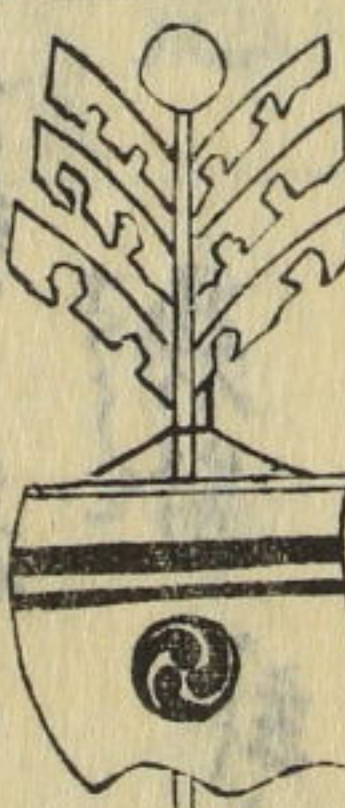
為成旗本 三百人

惣勢 八百廿余人



赤松市正利昌

月三條 六万二千石



鉄砲 五十挺 二百人

以二八須為九席
透る主斗

弓 五十張 右日

以二八須為九席
透る主斗

戦船 百艘 以二人 舟なり以二人 具足師 三人

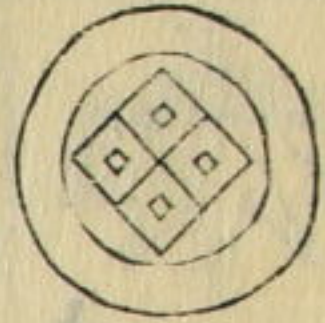
船大工 以二人 兵粮なり 十人 医師 十人

船中使 十人 船八百筋 以二人

船救 百艘

赤松が旗本 八百人

惣勢 八百人



伊地智右近正篤
日陣 三万八千



鉄砲 五十挺 二百人

山崎市兵衛

弓 五十張 百人

日 青原源六
黒崎宗泰

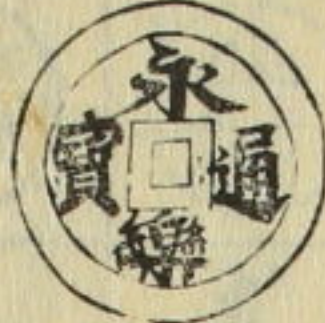
水軍 六百

日 星野平富
安山勝久

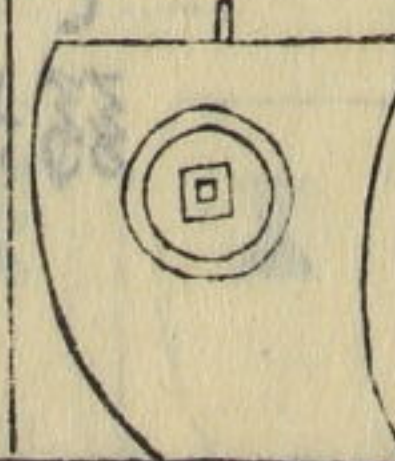
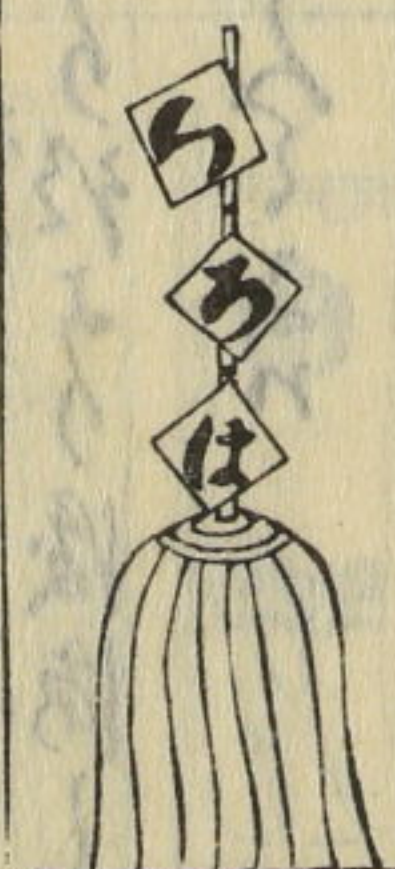
船乗り 五人 兵糧奉行三人 船中使番十人

船大工頭三人 伊地智右近正篤 二百人

医師 十人 勘助 二百人



橋久智氏部宗彪
後陣舟中船大工頭六人



鉄砲 百挺 四百人

日 東井又蔵

弓 百張 右月

日 小田系丹治
沼井金次

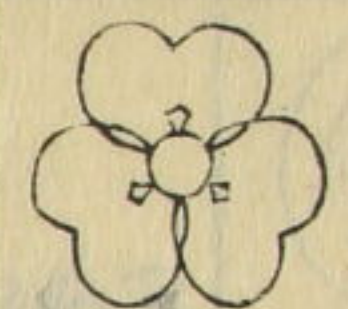
船乗り 十二人 水軍 二百人 船中使番廿人

兵糧奉行 十人 具足師 十人 医師 十八人

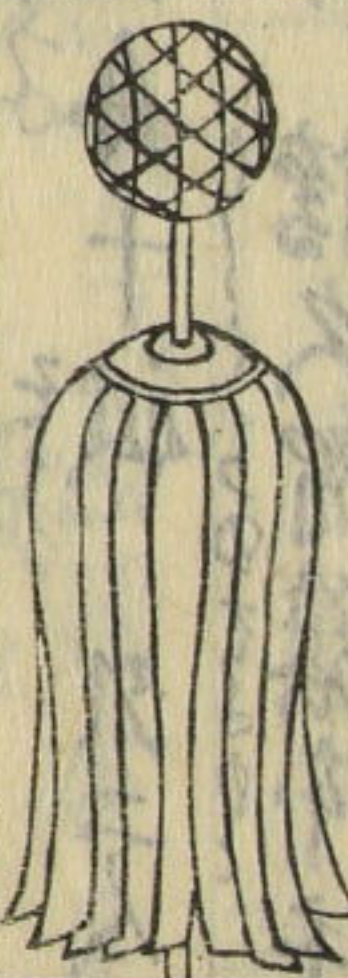
船大工頭 五人 舟侯舟十艘 以二人

大小の 兵船 百五十余艘 橋久智氏部宗彪 千八百人
勘助 四百人

惣軍れ会館軍送役



菱加利主水時弘
五万八千軍会館百人



合戦の万毎日薩見より琉球國へ会館と軍送役

水主 三百人

五二人

三妻小古
腔口又ちり

以上琉球後海の軍勢

水陸廿二隊の大軍 八万七千九百廿人

又援会として後陣ふさがり見より後海として弱

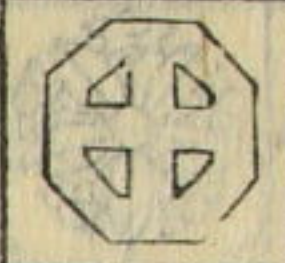
うらん方とすふ 千人とふ

志ノ多日向家弘	志ノ多衣系允親寛	志ノ多和泉美総	志ノ多玄蕃右政	志ノ多内匠勝親	志ノ多源次良安太	志ノ多友近延久祐	志ノ多大内記忠季
三万二千八百廿人	三万八千	六千	三万二千	七千	二万	三万	三万



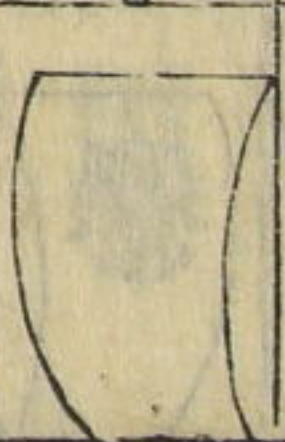
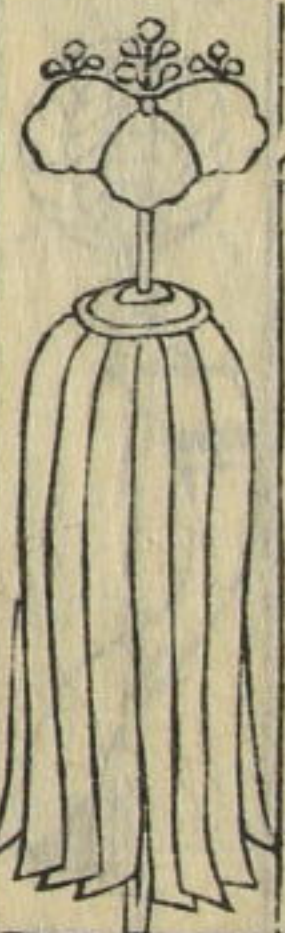
志テ多実内忠報

二万二



志テ多陽之助家治

二万九



右の人々志テ多家の一門にて

十家の大名各と称す

薩州勢琉球諸向

諸君の死に全く調ひられ勝氏下知と傳へて中々の
流石づきも二日中又用きしとてお侍るべし出舟の日を
使番とせしむるにせしむるにせしむるにせしむるに
意をくべしと厳重にせしむるにせしむるにせしむるに
夫より勝氏を名に久の御おふてふるなりすてふ定まり

わまに來る廿一日よりつゞき世に仕るべし本用を以て

くべしと云ふに及ぶれば名に悦を清くせしむるに

為朝にも御ししとてあるにせしむるにせしむるに

又年四月廿一日薩州十万人大軍を志テ多家肥後

忠久軍師に本武藏を勝氏とせしむるにせしむるに

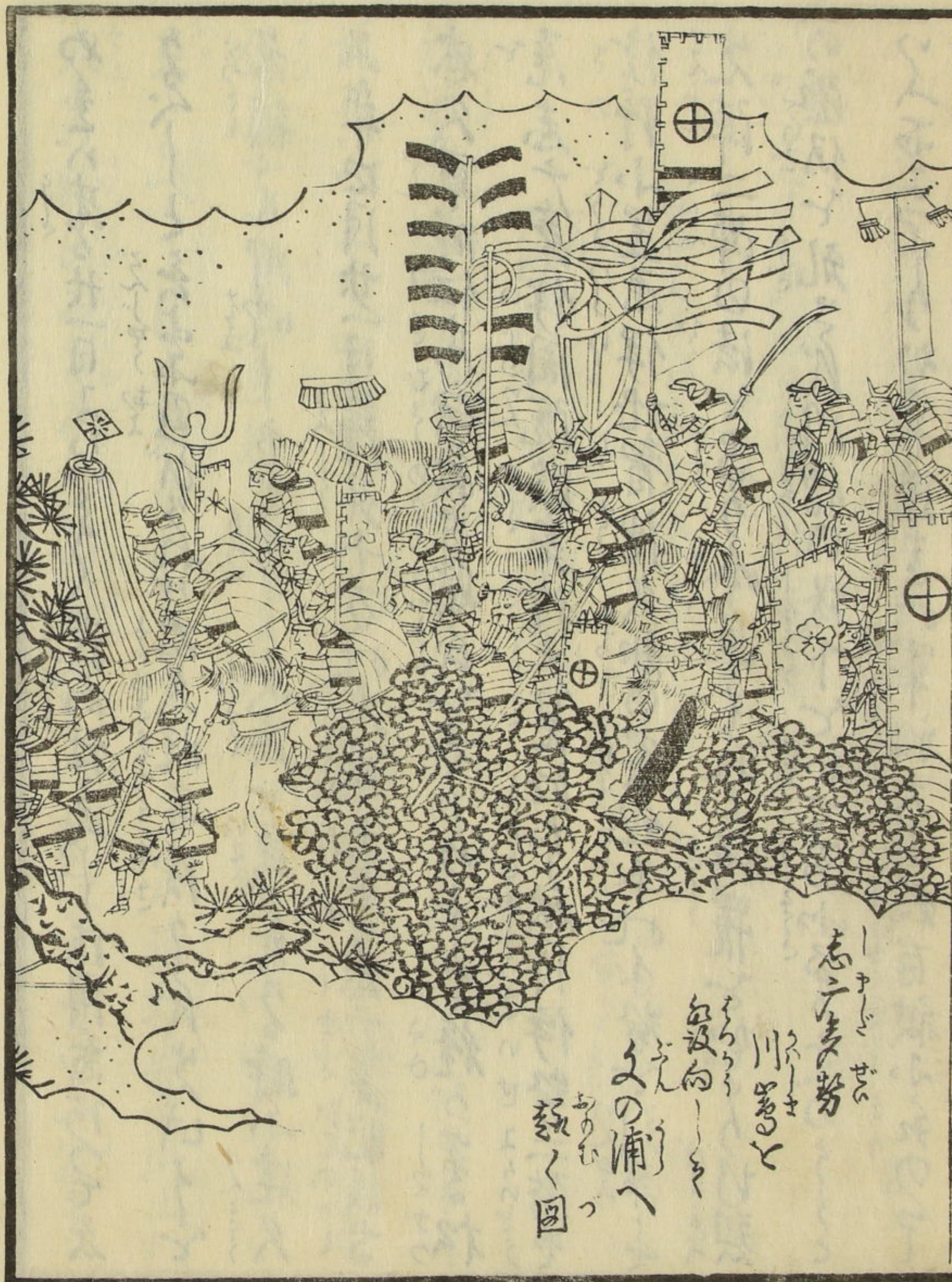
尾志テ多伊周院波多修戸見は本秋月伊勢二階

佐野小笠原伊地智播久知の案下しと勢と引率と

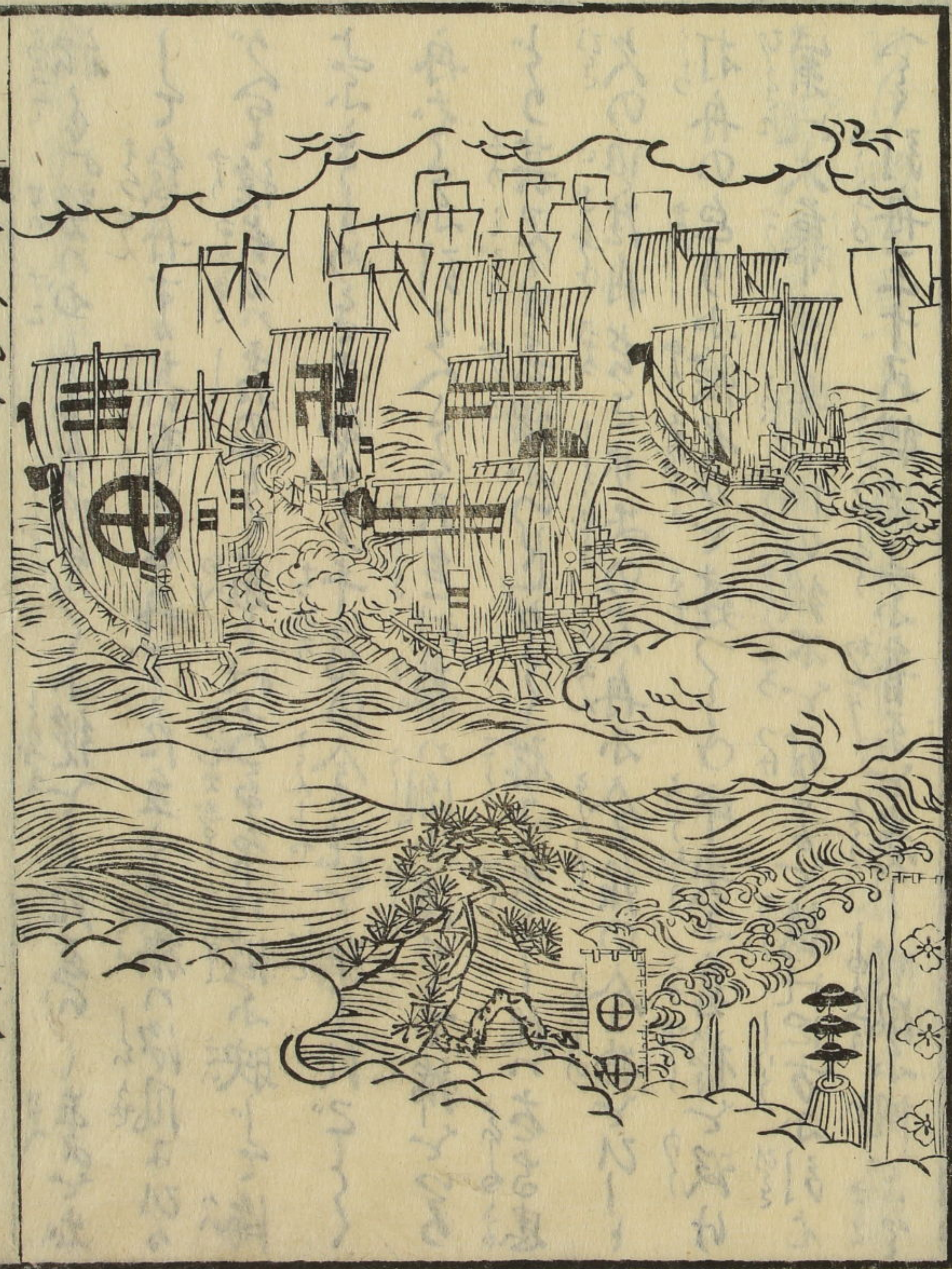
先陣二陣の法とあり今日とせしむるにせしむるに

の陣候と云ふに川橋の城下とありおふるに文の

つとありかりかて用きし軍船大小數百艘ふれ



志之妻勢
川若と
又の浦へ
類く回



薩州勢
波濤
凌いで
琉球へ
渡海の
図



船も此勢のわーりひきく小機ととれたるのくまを
 して船舟する其有さぬ舟でたまふ旗の波風まひる
 ぐへに機長刀のあゝのどく家々此大なる下は映して海
 よふとくくやとさあざう千尋の金陀と踊るれどく
 舟をさふ引をくくみ色れ幕の潮小津をを端とつる
 どり其足る云流ふつじぐく群ふ足るくたのちを思
 久のひは舟長さサ父の大舟小全船の金物とひり
 打舟のわり小機長刀と建つての中央小高槽と設け
 案此大幕ふハ雲小相の紋ふと付るを構はに方小引を
 へ引舟三十八艘海よふ音楽と奏し帆風小帆とや

わが琉球國へと殺向する千尋さぬ人目とおどろ
 一前代未聞の結構あり

繪本琉球軍記卷之五終

